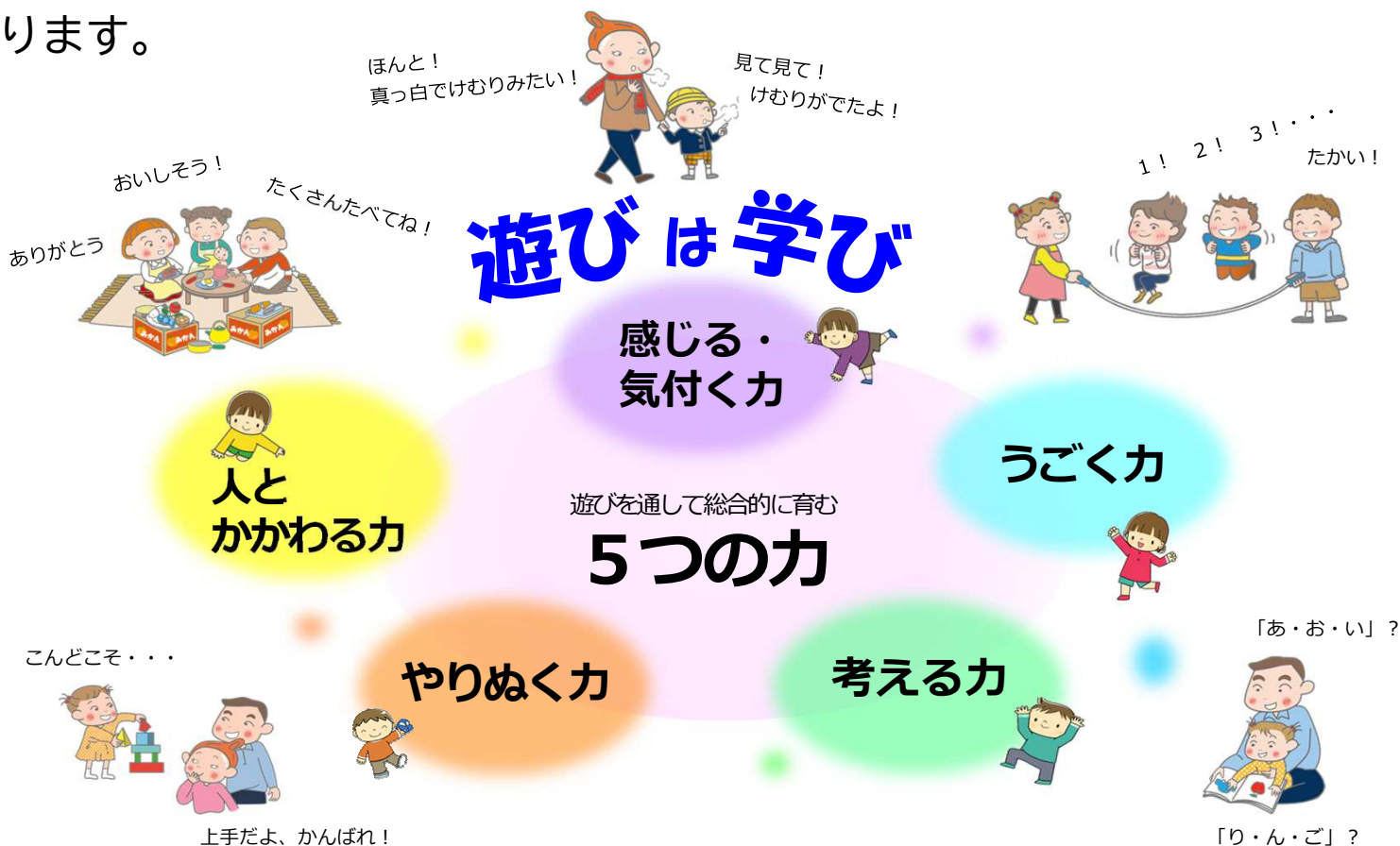


子供にとって

遊びや日々の生活の全てが 学びです

「遊び」や「生活」は子供にとって探究の宝庫。

遊びや日々の生活の中で、発見すること（感じる・気付く力）、体を動かすこと（うごく力）、創造すること（考える力）、困難を乗り越えること（やりぬく力）、人と関わること（人とかかわる力）などを繰り返し経験することで、生涯にわたって主体的に学び続けることにつながります。



子供のもっている力をさらに伸ばし引き出していくためには、子供の周りにいる大人が、その子の個性を大切にし、発達に合わせて「5つの力」を育てていくことが大切だと考えています。

ちょっとしたヒントを
ご紹介!!

遊びへの大人の関わり方

～大人の関わりはサポート型で～

遊びを一緒に楽しんでいますか？

- 親子で同じ楽しさを共有することは、親子の信頼関係を深めるとともに、子供の自己肯定感を育みます。楽しそうに見守っている大人がそばにただいて、子供は安心して遊びに集中することができます。子供の遊びを見守る中で、「楽しいね。」「すごいね。」などと声を掛けるのもいいですね。

子供の「ありのまま」を受け止めていますか？

- 子供はありのままの自分を温かく受け止めてくれる大人がいることで、このままで自分はいいのだという安心感、そして自信につながります。
子供のがんばっている姿をほめ、小さな成功体験を大切にしましょう。
- 大人は、大人の願い（勉強ができてほしい等）を押しつけてしまいがちですが、その押しつけは子供の新たな気付きや学び、探索の機会を奪ってしまうこともあります。

好奇心の芽生えをやさしくサポートしていますか？

- 自分がやってみると何かが反応するという体験は「なぜ?」「もっとやってみたい!」という好奇心の原動力になります。子供が自分で考えて行動し、うまくいかなかったときも、すぐに批判したり、解決策を示したりするのではなく「大きさを変えてみたらどうかな?」など想像が膨らむ答えを返したり、一緒に考えたりするのはどうでしょうか。
- 子供の「見て!見て!」という言葉には「なぜ?なぜ?」という、その子なりに考えた思いが込められていることがあります。「なぜだろう?」と考えている時間も大切にしたいですね。

他の子と比べていませんか？

- 子供の個性やタイプはさまざまです。大人は形をみることに慣れているので、つい、出来不出来などが気になってしまいがちですが、うまくいなくても、子供自身が工夫したり、試してみたりして、自分なりに「やればできる」という達成感や「できた!」という喜びにつながる事が大切です。

遊び「は」学び

広島県教育委員会乳幼児教育支援センター



子育て情報
発信中!

